



進化を続けるキャンパスと チャレンジ精神を支える先生たち。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
新入生の皆さんと同時期に八草キャンパスに
デビューするのが、新しい2号館です。1階のロ
ボットミュージアムは、全面ガラス張りで開放的。
本学のロボット研究を真近く見ることができま
す。建築学科や電気学科の一部が移転するほ
か、グリーンエネルギーを研究する本学の特徴を
活かし省エネ対策も万全の建物となっています。
本学ではこのように快適な学びの環境づくり
に力を入れています。皆さんには4年間の学生
生活で、専門知識を深めるだけではなく失敗を恐

れずチャレンジする精神を持ち続けてほしいと
願っています。皆さん「何かやりたい」という志は
持っているのです。しかしそこから一步踏み出す
勇気が足りない。ならば大学が、失敗したらどう
しようという不安を払拭して、皆さんを後押しし
ようではありませんか。最初の一步のために背中
を押してあげるの先生たちの役割です。先生
だって失敗や挫折の経験者なんです。その経験
を活かして、背中を押すだけでなくしっかり支
えてくれますよ。本当にものづくりが好きで、
まじめにこつこつ取り組む方が多いので、わか
らないことや相談ごとには一つ一つ丁寧に答えて
くれるはずです。

失敗を恐れず、一步踏み出す勇気を育てる。 そのための最適な環境が愛工大です。

愛知工業大学 学長 後藤 泰之

学業面以外でもスポーツにも力を入れています。
寮生活をおくる学生が多いので、毎日の食事
も含めた健康管理を、大学としてしっかりサポ
ートしていこうと考えています。

アジアへ。世界へ。 多くの学生に羽ばたいてほしい。

開学以来、第一線で活躍できる技術者の育成と
いう理念を掲げてきました。これは今も変わって
いません。加えてこれからはグローバルに活躍
できる教養を身につけてほしい。そのために語
学教育なども強化していかねばなりません。本
学には短期留学の制度があるので、もっとた
くさんの学生に参加してほしいです。海外留
学という躊躇する学生や心配される保護者の
方もいるかと思いますが、思いきって行って
みれば何も問題ないことだとわかるし、経験

は自信にもなります。
海外との縁という、本学は中国・東南大学と
30年以上にわたり教職員や学生が相互訪問
するなど、教育面で協力・交流してきました。今
後はそれをさらに充実させ、次は東南アジア、
タイやベトナム、インドなどの国々とも交流
を深めていきます。実際にタイやインドの
大学とは交流が始まっていますから、そうい
った海外の学校を拠点にして、学生たちの
留学制度をさらに充実させていければと思
っています。

最後になりましたが、皆さんには、早く目
標を持ってほしいですね。目標を決めて、目
指すところに集中してほしい。そしてその目
標に向かってあきらめずに努力してもらいた
い。本学はやる気のある学生を全力でサポ
ートします。自分の手で何かを生み出す喜
びを、ぜひ体験してください。

©光プロ

PICK-UP

今号の気になること

キャンパスライフを
どう過ごす？

まずは学内の施設を最大限活用しよう。そこから大きな一步に繋がります。

学生のチャレンジを応援する「学生チャレンジプロジェクト
(P2~P3参照)」、技術指導員が常駐し金属加工から木工ま
でのづくりを楽しむことができる「みらい工房」、資格取得
をバックアップする「エクステンションセンター」、学習面の不
安に応える「学習支援センター」、語学研修や留学生との交

流などに興味があれば「国際交流室(P8参照)」、そして就活
の拠点として欠かせない「キャリアセンター(P8参照)」など、
本学には学生をバックアップするための制度や施設が充実
しています。是非積極的に活用してください。夢に大きく近
づくヒントが見つかるはずです。



学生チャレンジプロジェクト

未来に向けて進化するものづくり事情、最前線。

<http://www.ait.ac.jp/nyushi/challenge> ※所属学科・学年は取材当時(2015年2月)のものです。

学生チャレンジプロジェクトとは作る場所、材料費、そしてコンテストや大会に参加するための資金を愛工大が援助するものです。実際にチャレンジしている学生たちの頑張りをピックアップしました。

©光プロ

Episode: 01

メンバー同士の絆とそれぞれの未来を小さな橋が繋げてゆく。

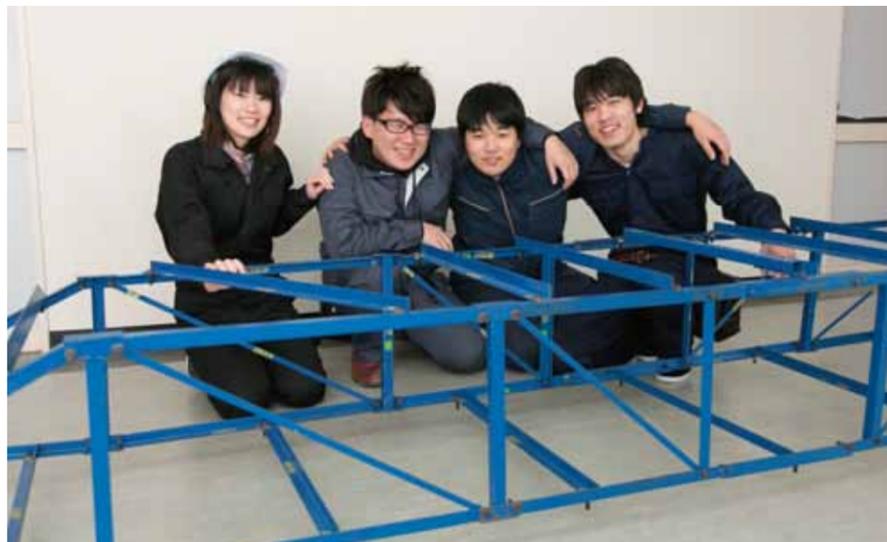
大山典紘さん(工学部都市環境学科3年)
近藤駿光さん(同2年)
佐藤菜さん(同2年)
伊奈孝淑さん(同1年)

強くて美しい橋を、いかに早く組み立てるか。時間との戦いは、本番前から始まっている。

長さ4m、幅60~70cmの小さな橋。これを事前に準備した鋼材を使い1チーム6人で30分以内に組み立て架橋する競技「ブリッジコンペティション」。2010年の第1回大会がここ愛工大で開催されたことをきっかけに、土木研究会の学生でチームを組み毎年出場しています。会場内で製作し、その強度、架設時間、美しさ等を総合的に競い合うこの競技で、まずチームが越えねばならなかったのが『作業時間30分の壁』でした。「これまで制限時間をクリアすることがなくて。今年度からは一つ一つ課題をクリアしていこうと決めて、まずは30分以内に造るという

土木研究会 ブリッジコンペティションへの挑戦

プロジェクト名:ブリッジコンペティション2014



左から、佐藤さん、伊奈さん、大山さん(元代表)、近藤さん(新代表)

目標を立てました」(大山さん)。

時短をめざし、練習時間を増やすことはもちろん、2種類あったネジを1種類にしたり、鋼材も3種類から2種類に減らすなど工夫を凝らしたチーム。鋼材の切断や溶接などの事前準備は愛工大の「みらい工房」で。意見を出し合いながらの作業

はチームの絆を強固なものにしていきました。

至上の喜びを味わうために、日々技術とチームワークを磨く。

創意工夫の結果、2014年の入賞は逃したものの30分の壁は見事にクリアし目標達成!「30分以内にできたときはみんな大喜びで、僕もすごく嬉しくて。1年生は一人だけの参加だったので、この感動も含めて会場で体験したことを新入生にしっかり伝えたい」(伊奈さん)。参加1年目で得られた感動はひとしおだった様子。「時間内に収めることができたという達成感は普段でもありますが、大会はまた格別です」(佐藤さん)、紅一点でも物怖じせず心から楽しむ笑顔は、チームの癒しとなったことでしょう。

「何と云っても、本格的な橋が鋼材で造れることが自慢です。また、この土木研究会は先輩後輩の隔たりが少なくフレンドリーだから気軽に入ってきてもらえますよ」(近藤さん)と新代表の言葉通り、橋造りを笑顔で語る4人の表情がそれを物語っていました。

次の目標は「美観」。30分以内に美しさを追求するという彼らの新しい挑戦は、既に始まっています。



男性に負けず力仕事をこなす佐藤さん



1年生の課題「橋コンテスト」に出品した新聞の橋



斜材を使ってゆがみを軽減



使用するネジを1種類にして、組み立て時間を短縮

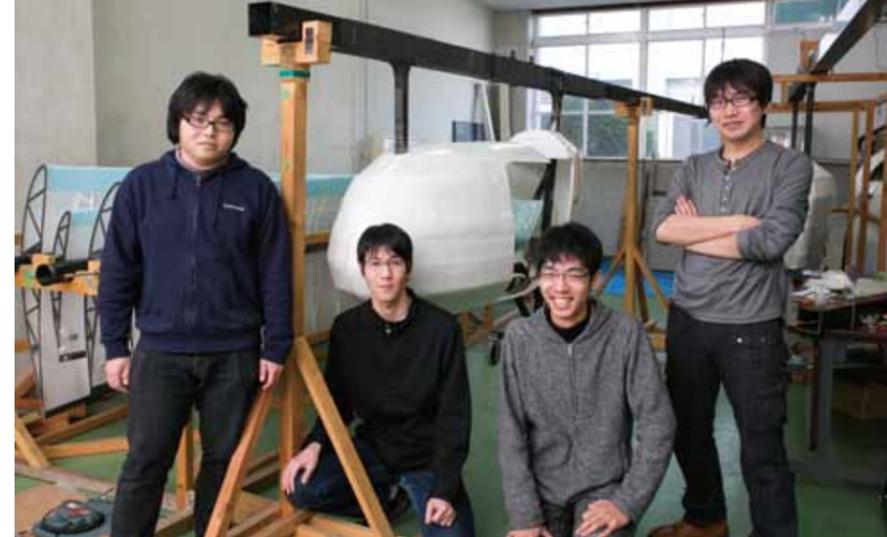


見た目以上にとても軽量のスチールブリッジ

出場するまでも、出場したあとも苦労話は山ほど。

人気長寿番組「鳥人間コンテスト」に出場して優勝すること、それがこの総勢50名からなる人力飛行機同好会の目標。2004年に発足して2007・2008・2012年と出場を重ねた本同好会ですが、優勝への道のりはなかなか険しいようです。

タイムトライアルで「記録なし」に終わった2012年。「発進は完璧。機体はまっすぐ飛んで飛行距離も十分でした。でも折り返したところで主翼の端が湖面に浸かってしまったんです」(本康さん)。バランスを崩した原因は、機体の重心の位置が高すぎたため、横風に負けて横転してしまったから。ならば重心位置を見直し、側面積を小さく



左から、加賀さん、本康さん(元代表)、沼田さん、京元さん(新代表)

Episode: 02

チーム一丸で取り組んだ成果が翼となって大空に舞い上がる。

本康晴之さん(大学院工学研究科2年)
京元淳樹さん(同1年)
加賀聡さん(同1年)
沼田雅斗さん(工学部機械学科4年)



新代表の京元さん(右)



強度&軽量化のため、骨組みはカーボン製



みんなの提案と思いが詰まった設計図



コックピット内はたくさんのコードが配線されている



飛行時の「安定性」もしくは「姿勢制御」を担う動翼

人力飛行機同好会 一陣乃風 鳥人間コンテストへの挑戦

プロジェクト名:第37回鳥人間コンテスト2014人カプロペラ機部門出場用機体及び旋回人力飛行機的设计・製作・地上試験・飛行試験

くして風に当たる部分を減らそう。プロペラも小さくしよう。抵抗を減らすために骨組みを強化して翼を支える張り線も無くそう。様々な工夫や改良を施したところ、結果は上々。安定的な推力を得られるようになりました。この結果をもってしても、今回も出場を果たせなかったのは残念無念…

コンテストは出場権を得るのも狭き門です。

飛んだ瞬間の感動が大空への憧れをさらに掻き立てる

4年生が半年ほどかけて描いた設計図をもとに、1~3年生も製作に参加。2~3ヶ月で完成させた機体はテスト飛行を行い、見つかった問題点を解決しながらまた飛ばします。「製作は学生たちがどれだけ泊まれるかにかかっています(笑)。冷暖房完備なのであとは個人で布団や寝袋を用意して、もう合宿状態です。でもこうやってチームでがんばった経験は、のちに必ず活きてきます」(本康さん)。

一番の醍醐味は、「仲間と造った人力飛行機が飛んだ瞬間は最高。思わずうわあって盛り上がります」(沼田さん)。「飛ばすためには壊して直しての繰り返し。1回飛ばすには大体2時間かかりますが、その2時間のために修復が約2週間。それも泊りがけでやるんですから」(加賀さん)。

目標は、やはりコンテスト優勝?「まず出ることが第一ですが、出場できたら記録を作りたい。そのために3年生と4年生とで技術の受け渡しをしっかりとやる。優勝だってきっとその先にあるはずです」(京元さん)。

平成26年、企画が採用されたプロジェクトはコチラ!!

企画の申請については6月頃、co-netや学内掲示でお知らせします。お問い合わせは工学部事務室(新2号館2階)まで!

- | | | | | | |
|---|--|----|---|----|--------------------------------------|
| 1 | 仮想空間における視点移動と姿勢計算システムによる運動制御 | 9 | ジャイロモーメントを用いた2輪ロボットによるロボットランサー競技への挑戦 | 17 | 2014鈴鹿 美浜6時間耐久ロードレース等への参戦(レース用車両の製作) |
| 2 | 「ソーラーカーレース鈴鹿2015」、「FIFAオンライン」への参加及びUAE主催による「コナイテッド・ソーラー・チャレンジ」への挑戦 | 10 | UAVによる学生の授業外活動活性化 | 18 | レスキューロボットプロジェクト |
| 3 | 2014年度 支部共通事業 日本建築学会設計競技第9回(公社)愛知県建築士会学生コンペ | 11 | 生物模倣型ロボットの開発 | 19 | Hondaエコマイレージチャレンジプロジェクト |
| 4 | 3Dプリンタを用いた最先端のものづくり研究会 | 12 | 日本建築学会設計競技「建築のいのち」及び、環境デザインコンペ「植物的建築」などの設計活動 | 20 | 学生フォーミュラ大会参戦プロジェクト |
| 5 | ETロボコン2015参戦による組み込み技術学習 | 13 | クラブプロジェクト | 21 | 地理空間情報を利用した地下街活性化プロジェクト |
| 6 | ブリッジコンペティション2015 | 14 | 第38回鳥人間コンテスト2015人カプロペラ機部門出場用機体及び旋回人力飛行機的设计・製作・地上試験・飛行試験 | 22 | 木造軸組で知ろう! いまに生きる職人技術 |
| 7 | AIT鉄人プロジェクト | 15 | Robocup Rescue競技大会優勝を目指した屋外調査ロボットの悪路走破性評価 | 23 | Robot-Art |
| 8 | 3Dプリンターを用いた最先端のものづくり研究会 Robo Cup プロジェクト | 16 | からくりロボット | 24 | 学生ドリフト競技大会優勝を目指した車両製作と走行性能の評価 |
| | | | | 25 | 学生対抗軽自動車6時間耐久レースへの参戦 |

堤幸彦監督による特別講義を実施 メディア情報専攻との コラボレーションが活発に

1月21日、情報科学科3年生を対象にした「デジタル映像処理及び演習1」の授業が八草キャンパス1号館3階(メディア視聴覚室)で行われ、客員教授の堤幸彦映画監督が特別講義を行いました。

堤監督は、時間と労力をかけ細部までこだわった作品を制作した学生たちをねぎらい、「自分の身の回りで見ていることに目を向けることで、目線の中にあるものがテーマとなり作品へとつながります。日頃から目線を鍛えることが大事」と話し学生たちにエールを送りました。堤監督と情報科学科メディア情報専攻は、映画製作などを通して様々な映像技術の共同開発を行ってきた縁で、現在も活発に交流を続けており、最近では、堤監督が映像担当や演出を手掛ける舞台公演で、映像制作の一部を本学学生が担当するなど、学生にとっても貴重な経験をする良い機会となっています。



応用化学科 森田教授の研究 科学雑誌「ニュートン」が紹介

応用化学科の森田靖教授(物性有機合成化学)が開発している電池が、環境保護の観点からリサイクル不要な理想的な電池となる可能性を秘めているとして、科学雑誌「ニュートン」(2015年4月号)で「進化をつづける電池」と題して紹介されました。電極にレアメタル系ではなく有機材料を使うという新しい発想で、森田教授らは炭素を中心に構成される有機物で4つの電子をためこむことができる「TOT(トリオキソトリアンギレン)」という新しい分子を世界で初めてつくり出しました。現在は、「TOT」を電池の正極に、負極には金属リチウムを使い、実験を重ねています。森田教授は「二次電池活物質への応用は、新規の物質を自在に組み立てていくことができる有機合成化学の新たな展開の一つ。未知の分子の設計や合成に興味を持ってもらえる学生さんをどんどん増やしたいと思います」と話しています。



本学第1号 FE試験に合格 「世界に通用する技術者を目指す」

知能集積システム研究室(機械学科・内田敬久准教授)の立野進也さん(大学院博士前期課程2年)が米国プロフェッショナル・エンジニア(PE)の1次試験であるFE試験に合格しました。米国ではプロフェッショナル・エンジニアという資格制度が設けられ、社会・公共の安全や国民の健康に関わる重要な技術業務にはPEのライセンスが要求されます。FE試験はPEへの第一歩となる試験で、全米エンジニア試験協議会(NCEES)発行の合格証を手に入れた立野さん

は「PEへの第一歩を踏み出すことができうれしい。もっと勉強して力をつけ、世界に通用する技術者を目指したい。」と話しています。本学機械学科のPEコースは、PEの資格を有する専任教員が中心になって大学院進学を視野に入れた少人数教育を行い、基礎教育センターの教授らも英語教育をサポートしています。



AIT TOPICS

詳細はWEBで! / 愛工大 検索

※所属学科・学年は、2015年3月現在のものです。

災害調査用ロボット「Scott」 国土交通省の現場検証に参加

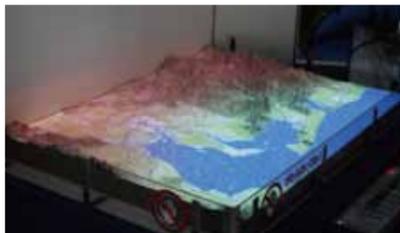
国土交通省国土技術政策総合研究所(つくば市)にある模擬トンネルで行われた、トンネル崩壊事故を想定した現場検証実験に、知能機械システム工学研究室(機械学科・奥川雅之准教授)の災害調査用ロボット「Scott(スコット)」が参加しました。「Scott」は、災害調査部門のトンネル災害において崩落事故を想定した、人の立入りが困難若しくは人命に危険を及ぼす災害現場での「爆発等の危険性を把握するための引火性ガス等に係る情報の取得」、「崩落状態及び規模を把握するための高精細な画像・映像等の取得」ができる技術・システムを対象とする分野で選定されています。今

回の現場検証実験を通じ、その実用性や技術向上の可能性を検証し、概ね3年以内の実用化が見込まれる技術について確認が行われ、その結果を踏まえ、国土交通省は今後、これらの技術・システムの活用、開発・改良の促進に力を入れていきます。



メディア情報研究会が制作 「南海トラフ災害シミュレーション」 名古屋市港防災センターに設置

メディア情報研究会(情報科学科・鳥居一平准教授)がプロジェクションマッピングと正面の大型ディスプレイを使って、南海トラフ巨大地震が発生した際に想定される被害状況と備えについて可視化し、名古屋市の要望で名古屋市港防災センターに常設されました。解体して運べるので、各種イベント・講座、小学校などの出張授業などにも活用が可能。シミュレーションデータは愛工大地域防災センターとの連携により随時更新します。



スポーツマネジメント専攻 石垣教授 愛知県警察本部から感謝状

1月5日、経営学科スポーツマネジメント専攻の石垣尚男教授が、高齢者の交通事故の原因の1つが見るチカラ(目で見える範囲や目から入ってくる情報を瞬時に判断する力)の低下にあることについて、県下全署の交通安全担当の警察官に対する講演や、千種警察署管内の高齢者を対象に多くの講習を行うなど日頃から交通事故対策に貢献しているとして愛知県警察本部より感謝状が贈られました。石垣教授の研究は「スポーツビジョン」とも呼ばれ、1月17日にはプロ野球チームのジャイアンツの新人団選手に対する講習やトレーニング法の指導を行いました。講習は2009年から始まり今年で7年目になります。



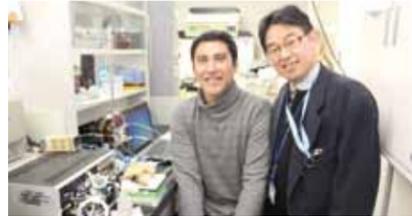
都市環境学科、日本初の 海上防災地図の作成に協力

三重県南伊勢町と三重外湾漁協、鳥羽海上保安部などと本学が連携し、漁業者の防災対策の一環として大津波の発生時に出漁中の漁船が避難するための「海上防災地図」を作成することが決定し、全国的にも初めての試みとして、さまざまなメディアに取り上げられました。都市環境学科・小池則満准教授、地域防災研究センター・服部重由未ポスドクトラル研究員、同センター・森田匡俊客員講師(岐阜聖徳学園大学 教育学部 専任講師)のほか学生らも船に乗り込み海上から沖へ出た場合、港へ戻った場合のそれぞれの時間を追跡するなどの調査に協力、2015年度中の完成を目指しています。



大学院留学生が「新規な流れ 分析装置の開発」で 最優秀口頭発表賞を受賞

工学研究科博士後期課程電気・材料工学専攻3年のアレハンドロ・アヤラさんが「流れ分析」に関する国際会議で若手研究者最優秀口頭発表賞を受賞しました。アヤラさんはメキシコから3年前に本学へ留学、生命・環境分析化学研究室(手嶋紀雄応用化学科教授、村上博哉講師)に所属し「新規な流れ分析装置の開発」の研究を続けています。今大会には世界18カ国から研究者、学生合わせて189人が参加しました。アヤラさんは「システムの製作に1年かかったので受賞できてうれしい」と感想を述べ、手嶋教授も「分析法の高度化が評価された。今後の活躍に期待したい」と話しています。



工学研究科 院生が 最優秀講演賞を受賞

日本セラミックス協会東海支部学術研究発表会において、大学院工学研究科博士前期課程1年の岡本高明さんが発表した「二オプ酸亜鉛微粒子の水熱合成とその性質」が最優秀講演賞を受賞しました。従来1000℃以上の高温反応でしか得られなかった二オプ酸亜鉛を240℃という極めて低い温度で合成することに成功、約1年がかりで最適な合成法を見つけました。



電気・電子・情報関係学会 東海支部連合大会で3人が受賞

昨年開催された「平成26年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会」において研究発表した本学学生のなかから、その内容が優れていたとして3件が受賞し、下記の通り1月に表彰されました。



■電気学会優秀論文発表賞
大学院 工学研究科
博士前期課程2年電気電子工学専攻
河合竜児さん
「太陽光発電に起因する短期変動予測に関する研究～雲量データを用いた日射強度推定の補正手法～」



■連合大会奨励賞
大学院経営情報科学研究科
博士前期課程1年
経営情報科学専攻
小西拓也さん
「画像処理技術を用いた板書時の立ち位置と死角検出手法の提案」



■IEEE名古屋支部学生奨励賞
情報科学部情報科学科4年
桐ヶ谷慧さん
「学習オントロジーを利用した過去問抽出システム」

世界卓球2015 日本代表に選出 吉村真晴選手、吉田雅己選手

1月19日、世界卓球2015(4月26日～5月3日、中国・蘇州)の日本代表選手が日本卓球協会から発表され、男子卓球部の吉村真晴選手(経営学科3年)と吉田雅己選手(同2年)が選出されました。吉村選手は全日本卓球選手権の混合ダブルスで、一昨年、昨年に続き石川佳純選手(全農)とペアを組み、悲願の優勝を果たし代表に選出されました。吉田選手は、世界卓球日本代表選考会の男子シングルスで優勝し代表の座を獲得しました。波に乗る吉村選手、吉田選手の活躍が期待されます。応援よろしくお祈りします!



左から吉村真晴選手、吉田雅己選手

競技スキー部フリースタイル 四方元幾選手が 国内A級レースで優勝!

1月12日、長野県飯山市 斑尾高原スキー場で開催された第23回東京都モーグル競技会(SAJ A級公認競技会・FISレース)において、競技スキー部の四方元幾選手(経営学科3年)が優勝しました。この協議会は国際スキー連盟公認の国内トップカテゴリーのレースで、予選、決勝ともに1位のポイントを獲得し完全優勝となりました。四方選手は、昨年12月30日に韓国の春川(チュンチョン)で開催された国際レースでも3位となりました。2018年に開催される平昌(ピョンチャン)五輪出場を目指しています。



Catch-up 本学の研究室のなかから、注目の2つの研究室を紹介します!

ものづくり × 研究室 1 宇宙機システム研究室(機械学科 今野彰教授)

モデルロケットの設計・製作・打ち上げ・検証評価、将来の有人宇宙機への適用を目指した推進系の研究、超小型衛星のJAXA(宇宙航空研究開発機構)相乗り打ち上げなども視野に入れた研究などに取り組んでいます。JAXAで長年ロケットエンジンの開発に携わってきた今野教授は、「もう宇宙は遠い存在ではありません。学生たちには夢中になれる何かを見つけてほしい」と話しています。



ものづくり × 研究室 2 視覚情報デザイン研究室(情報科学科 松河剛司講師)

モーションキャプチャシステムと筋電図・心電図などの生体信号を用いて、3次元コンピュータグラフィックスによる「目には見えない人の生体情報を可視化」する研究をしています。研究成果を応用しプロダクト製品のデザイン評価、スポーツの効果測定、介助動作の負担計測などに活用。デザイン・コンピュータグラフィックスの演習や研究・制作を通して、モノづくりの感動・楽しさを伝えます。



AIT STUDENT

chapter 19

編集長：近藤由梨 / カメラマン：川上真以、大島遼也 / ライター：河合直美 / 取材：東地爽

島研メディア情報研究会(情報科学科島居一平准教授)企画「AIT STUDENT」第19号です。今回は、愛知工業大学の隠れた見所をご紹介します。さらに愛工大の秘密基地と題して、総合技術研究所、同窓会を取材させていただきました。ぜひご覧ください。

Topics 01

皆に教えたい、大学のおすすめスポットを紹介します！

愛工大の歩き方



メディアセンター
パソコンはもちろん、AV機器も置かれており、大画面で映画を楽しむことだって出来ます！メディアセンターは1号館2階にあり、誰でも利用可能です。

セズンイレズン
セズンイレズン愛工大店は、AITスラザ2階にあります。お昼の時間帯には店内に長蛇の列ができるほど大人気！混雑を避けるなら、9時少し前頃がおススメ。



自由ヶ丘食堂

自由ヶ丘キャンパスにあるランチルームはとってもオシャレ。大きな窓から入ってくる太陽の光で照らされた明るい空間です。メニューも豊富で、ゆったりランチタイムを楽しめます！

マルチメディア情報センター

自由ヶ丘キャンパス1階には、学生が自由に利用できるコンピュータールームがあります。



セントラル食堂

定食やラーメン、丼ものなどなど、おいしくてリーズナブルなメニューが豊富なセントラル食堂。がっつり食べたいときはセントラル食堂へ！

※現在仮設の建物で営業しています。
※セントラル食堂以外にも、レストラン・食堂はマイティハウスや愛和食堂もあります。



Topics 02

大学の技術開発の最先端を担う、「総研」事務長の佐藤重明さんに伺いました！

愛工大の秘密基地

総合技術研究所とは？

産学官連携の推進、つまり本学と民間企業と官公庁が一緒に研究開発を推進するための拠点となる研究所として、1992年4月に設立されました。産学官連携の推進だけでなく、文科省のプロジェクトも推進・研究しています。

総研が行っていること

総合技術研究所で行うプロジェクトで代表的なもの一つは、現在行われているグリーンエネルギー研究拠点プロジェクトです。他にも、本学の4年生が卒業研究で利用することが多いですね。学生が利用する装置の多くは高価な



ものです。学生がこうした装置を利用して研究しているというのは他大学と比較すると非常に珍しく、本学の特徴と言えるでしょう。また、テクノフェアを隔年で開催しています。これは

企業に向けて各研究室が行ってきた研究成果を発表する場です。ブースによっては学生が研究の説明を行っていますね。これもやはり他ではあまり見られない事で、学生にとって貴重な経験になっていると思います。



本学の学生に望むこと

本学の学生には、地元地域に根付いた研究者や技術者になってもらいたいですね。大企業に就職する人もいるかもしれませんが、中堅企業などでも大いに活躍して欲しいものです。学生のうちから特殊な大型装置を利用するなど、とても貴重な経験をしているのですから。

Topics 03

意外と知らない？愛知工業大学の同窓会！

瑞若会（愛知工業大学同窓会）

同窓会とは？



同窓会とは、勉学をともにした人たちが社会に出てからも交流したり、母校への援助を行ったりする組織です。愛知工業大学の同窓会の名称は「瑞若会（愛知工業大学同窓会）」といい、会員は、在学を「準会員」、卒業生を「正会員」としています。会費は入会費と永年会費があり、4年生後期の授業料納付時に納めます。この会費を毎年積み立てて、同窓会や大学の記念行事や寄付など様々なことに利用しています。準会員への支援は、大学祭への資金援助、駅伝大会や工科展の賞、就職活動に関わる企業展の援助等があり、さらに入学時に配布される「スタートアップ」や「AIT NEWS」は後援会などと合同で資金の援助をするなど、在学は同窓会から多様な支援を受けています。

卒業している同窓生に対しては、全国にある地域支部の他に、企業内の同窓生で組織される職場支部、大学の学科で組織される学科同窓会があり、様々な場面で交流会が行われています。

清酒 瑞若

このような交流をさらに深めていくためのアイテムとして「清酒 瑞若」という銘柄の日本酒を今年度から造り、販売しています。同窓生同士が集まったとき、このお酒を肴に大学のことを思い出してくればという思いから造りました。同窓会に入ることによって今の大学の情報を知ることができます。在校生の方は在学中も含めて、卒業してからも同窓会を活用して欲しいと思います。



編集後記

1月16日のキックオフミーティングから制作が始まった「AIT STUDENT Chapter19」がいよいよ完成いたしました。取材に快く応じてくださった総研の佐藤さん、同窓会の岩月先生、山田さん、そして制作に協力していただいた金の方へ、この場を借りてお礼申し上げます。

01 業種別研究会

平成26年12月13日(土)八草キャンパス1号館の各教室で、全学年全学科の学生を対象とした業種別研究会を開催しました。これは学生の皆さんが就職活動に入る前の段階においてさまざまな業界や業種、そして職種があることを知り、企業選びの選択肢を広げてもらおうと企画したもので、参加企業12社が午前・午後2グループに分かれ、それぞれの企業に各教室内でスライドを使って業界・業種動向や企業の中でもさまざまな役割の人たちがいることなどを丁寧に説明いただきました。服装自由ということもあり、低学年の学生も多数参加し、企業の説明後に質問する姿も多く見られました。



02 第一印象向上講座

平成27年1月15日(木)・21日(水)の2日間、八草キャンパスAITプラザ3階会議室で第一印象向上講座を行いました。

この講座は第一印象がなぜ大切かという理論的なことから参加者同士で実際に自己PRやお辞儀などを行ったり、グループディスカッションを行ったりという体験型が好評で毎年定員が一杯になる講座です。今年も2日間で132人が参加しました。

参加した学生は「この時期に実践的な講座に参加できてよかった」「第一印象がなぜ大切か良くわかった」と自信を持った表情で会場を後にしていました。



03 企業との懇談会

平成27年2月12日(木)・13日(金)の2日間、八草キャンパス1号館2階のレンタルスペースなどで企業の採用担当者と学生の懇談会を行いました。

この懇談会は就活を間近に控えた3年生と大学院1年生の就活に対する不安や疑問などを実際の企業の採用担当者に答えてもらおうという取組で、企業の採用担当者が待つ各部屋に事前に申し込んだ8人~10人の学生が入り、近い距離で懇談を行いました。各部屋とも企業の採用担当者のリードにより参加学生から質問も飛び交い、とても和やかな雰囲気でした。



04 学内企業展(愛名会)

平成27年3月2日(月)・3日(火)の2日間、八草キャンパス鉦徳館で本学の全学年全学科と愛知工業大学情報電子専門学校の学生を対象とした平成27年学内企業展が行われました。

この学内企業展は本学の母体である学校法人名古屋電気学園の後援組織「愛名会」とキャリアセンターが共催するもので、毎年数回行われる学内企業展でも最大のものとなり、本年も2日間で455社の愛名会企業が参加しました。

就職活動の解禁からすぐの学内企業展ということもあり、会場は熱気に包まれていました。



国際交流室 インフォメーション

学年、語学力は一切不問!!

**留学生たちと日本文化を通じて交流できる
貴重な機会をお見逃しなく!!**

伊勢神宮バスツアー



**興味があれば誰でも参加OK!!
まずはお気軽に国際交流室へ!!**

国際交流室では、年に2~3回、留学生と日本人学生の交流を目的としたイベントを開催しています。昨年は、12月に「伊勢神宮バスツアー」、8月に「トヨタ産業技術記念館見学会」を実施しました。「伊勢神宮バスツアー」では外宮参拝後、式年遷宮記念せんごう館を見学、昼食に伊勢名物の伊勢うどんと手こね寿司を味わった後、内宮を参拝し、おかげ横丁

の散策を楽しみました。「トヨタ産業技術記念館見学会」では、草創期から現代までの日本の自動車産業の歴史と技術に触れ、参加者は興味津々な様子で、今ではあまり目にする事のない車種の展示などを見学しました。飲食やゲームを共にしながらの交流会は、留学生、日本人学生双方にとって、異文化への理解や互いの親睦を深める良い機会であり、また日本の伝統文化や歴史、産業などに触れる貴重な体験の場となっています。次回イベントの告知は6~7月ごろの予定です。イベントのお手伝いなど国際交流に関わるボランティアも随時募集しています。留学生と友達になりたい、外国語を勉強したい、話す機会がほしいなど、国際交流に関心があれば学年や語学力は全く問いませんので、興味のある人は是非、八草キャンパス 第2本部棟4階の国際交流室まで!

トヨタ産業技術記念館見学会



Schedule (2015年度 前期)

4 April	1日(水)~4日(土) オリエンテーション
	2日(木) 入学式
	3日(金)~9日(木) 健康診断(土日を除く)
	6日(月) 授業開始
	29日(水祝) 授業実施日
5 May	6日(水祝) 授業実施日
7 July	20日(月祝) 授業実施日
	21日(火) 前期授業終了
	22日(水) 試験開始
	25日(土)・26日(日) オープンキャンパス
8 August	1日(土) 夏季休業開始

facebook

<http://www.facebook.com/aikoudai>

594人の人が と言っています
※2015年3月現在



学内イベント、研究室の様子、クラブ活動、学食の様子など、愛知工業大学の色々な情報をどんどん発信していきます! Facebookでフォローして、愛工大を盛り上げよう!

YouTube

愛知工業大学の
公式チャンネルができました。